

2台揃ってQ2に進出し、決勝ではともにポイントを獲得！

2022 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第3戦レポート

開催日程	2022 年 4 月 23 日(土) / 24 日(日)	開催場所	鈴鹿サーキット(5.807km)
大会名称	2022 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第3戦 (31 周 / 参加台数: 21 台)		
天候 / 気温	4 月 23 日(土) 曇り / 24 度 24 日(日) 雨 / 17 度		
観客動員数	4 月 23 日(土): 6,000 人 24 日(日): 10,000 人 計 16,000 人(主催者発表)		

開幕戦から2週間後の4月23日～24日、三重県の鈴鹿サーキットでスーパーフォーミュラの第3戦が行われた。

今大会は「2022 NGK スパークプラグ 鈴鹿 2&4 レース」として開催された。鈴鹿の2&4レースは1975年から始まり、中断期間はあったが、現在も続いている2輪、4輪のトップカテゴリーが融合した大会となっている。

前戦富士は1大会2レース制で、第1戦と第2戦がそれぞれ1DAYで行われたが、今回は第3戦の1戦のみとなるため、23日(土)に予選、24日(日)に決勝が行われる。



【予選】

天気：曇り / 気温：24度 / 路面コンディション：ドライ

#7	小林可夢偉	Q1B組: 4位 / 1' 37.207	Q2: 11位 / 1' 37.123
#18	国本雄資	Q1A組: 3位 / 1' 37.329	Q2: 5位 / 1' 36.626

予選日の朝は1時間半のフリー走行からスタート。小林、国本ともに改善点はあるものの良い手応えも感じ、小林は12番手(1' 38.423)、国本は9番手(1' 38.324)で走行を終えた。

午前に比べると雲が増え、メインストレートでは軽い追い風が吹く中、予選が始まった。気温 24℃、路面温度 31℃。Q1 は A 組(10 台)と B 組(11 台)に分かれ、上位 6 台ずつが Q2 に進出する。今回も国本が A 組、小林が B 組での走行となった。

15 時 10 分、Q1A 組開始と同時に国本もコースイン。アウトラップからマシンのフィーリングに手応えを感じた国本はコントロールラインを通過すると、翌周にピットに戻ってきた。ニュータイヤを装着し、残り時間 3 分で再びコースインすると、計測 2 周目に 1'37.329 をマークし、3 番手タイムで今シーズン初の Q2 進出を果たした。

15 時 25 分より Q1 B 組がスタート。小林はフリー走行から大幅に変えたマシンセッティングが功を奏し、最終アタックで 1' 37.207 をマーク。小林も 4 番手で Q1 を突破した。

10 分間のインターバルを経て、運命の Q2 が始まったのは 15 時 45 分。残り時間が 3 分 30 秒となったあたりで小林はコースイン。アタックラップのスプーンコーナーでミスしてしまったため再度アタックを試みたが、残念ながらチェッカーが振られてしまい、タイムアップは叶わず。1' 37.123 で 11 番手となった。小林と同じタイミングでコースインした国本もアウトラップの翌周にタイムアタックを開始。うまく一周をまとめた国本は Q1 より 0.7 秒も速い 1' 36.626 を叩き出し、5 番手で予選を終えた。予選後、国本には Q1 での#15 笹原選手との交錯に対して妨害行為の判定が下され、3 グリッド降格のペナルティが課された。そのため、8 番グリッドからスタートすることとなった。



【決勝】 天気：雨 / 気温：17度 / 路面コンディション：ウェット

#7 小林可夢偉 5位 / #18 国本雄資 6位

前日のドライコンディションから一転、生憎の雨となった決勝日。8時45分から行われたフリー走行では午後の決勝に向けてマシンの状態を確認し、小林が4番手(1'54.382)、国本が18番手(1'58.027)となった。

「ウェット宣言」下での決勝となったため、全車ウェットタイヤを装着してグリッドに並ぶ。ウェットタイヤはレース中のタイヤ交換義務が発生しないため無交換でゴールを目指すことも可能だが、雨量や路面温度によるタイヤの摩耗によって走り切ることができるのか、はたまたタイヤ交換した方が速く走れるのか、とタイヤの使い方が重要になってくる。

14時30分、気温17度、路面温度20度というコンディションの下、多くのモータースポーツファンが見守る中、レーススタート。水しぶきでまったく前が見えない中、小林と国本はまずまずなスタートを切り、小林は9番手、国本は7番手でホームストレートに戻ってきた。タイヤも温まり、周回を重ねる毎にラップタイムを上げる小林は前を走る#65 大湯選手と接近戦を展開。9周目のシケインで大湯選手とペースが上がらない#38 坪井選手の2台をかわして7番手になる。国本も坪井選手を捉え、6番手に浮上した。レース中盤には小林と国本が5番手争いを展開。2台の「Kids com」カラーのマシンは見ごたえのあるバトルを繰り広げ、16周目の2コーナーで国本が若干はらんだ隙を突いて小林が前に出る。5番手にポジションを上げた小林はさらにペースを上げ、#4 フェネストラズ選手の背後に迫るがオーバーテイクには至らず、5番手でチェッカーを受けた。6番手に後退した国本はタイヤをいたわりながら周回を重ねていく。レース終盤、#20 平川選手がじわじわと迫ってきたが、追いつかれることはなく、6位でフィニッシュとなった。

苦戦が長く続いていたKCMGに復調の兆しが見えた第3戦。この上昇気流に乗って次戦オートポリスでは2台揃っての表彰台獲得を目指す。



【ドライバーコメント】

#7 小林可夢偉

ドライタイヤでもウェットタイヤでも良いペースがあったので、そういう意味では今回の鈴鹿は前回の富士に比べるとパフォーマンスが上がり、非常にチームが頑張ってくれたなと思います。しかし、当然ポイント獲得が最終目標ではないので、しっかり勝てるクルマを作れるように、チームともっとうまくやっていきたいです。

次のオートポリスは過去には良いレース展開があったサーキットなので、今の流れをしっかり持っていきながらさらにレベルアップして挑めるようにしたいです。

#18 国本雄資

スタートは良く、ポジションを上げることができました。ミスさえなければ抜かれることもなくチャンスもあったのですが、後半かなりタイヤが厳しくなり、スピンやコースアウトしそうな場面もありました。しかし、周りも同じような状況だったので抜かれることなく、ポジションを守り切ることができて良かったです。

今回、ずっと課題だった予選のパフォーマンスを改善できたので、次のオートポリスでもそのパフォーマンスを発揮し、さらに今回良かったことを再度確認して臨みたいと思います。オートポリスは前からスタートすれば表彰台のチャンスがあるので頑張ります。

【監督コメント】

松田次生監督

今回は2台とも予選から非常に調子が良かったです。今までウェットコンディションに関して色々課題もありましたが、ウェットの決勝でも2人揃ってスタートで順位を上げてくれて、ペースもとても良かったです。チームとして少しずつ階段を上っている最中で、良い方向に進んでいることを実感しています。この3戦でポイントを獲得できているので、次戦オートポリスでは上位で、できればチーム初優勝を目指して頑張っていきたいと思います。次回も応援よろしくお願いします。